

北海道岩見沢農業高等学校における 木育の取組について

北海道岩見沢農業高等学校
齊藤 光希、長谷川 斗真

研究の背景・目的

本校で設定している教育課程のうち科目「課題研究」では、地域の諸課題を解決することを通じて、考察する力を養うとともに、実践的・体験的な学習を目指しています。そして、本校森林科学科では全4つの専攻班のうち令和2年度から「木育専攻班」を立ち上げ、「木育」という手法を活用したプロジェクト学習を行っています。

本研究の柱は、2004年に全国に先駆けて北海道から始まった「木育」を広く地域に広めていきたい、との願いから、人々の暮らしに「木」を利用・活用する機会があれば、高齢化や担い手不足が著しい林業従事者の構造改善に繋がるのではないかと考えています。

今年度は、岩見沢市内にある保育園との連携強化を行い、体系的な木育プログラムを検討しながら、私たちの活動の幅を広げていくために、取組を展開しました。

研究の内容・成果

第1 岩見沢市内にある保育園との連携を通じた体系的な木育プログラムを確立しよう

社会福祉法人めぐみ学園日の出保育園との連携は4年目を迎え、木育を通じた自然体験活動の教育的効果の高さは「教える側」の高校生と、「教わる側」の園児双方にメリットがあると手応えを感じています。

そして今年度の木育活は「五感で森を学ぼう！」と、ねらいを決め、年3回の体験学習を体系的に行うことを留意し、実施しました。

<第1回>

ヒノキ単板の名札づくり&はっぱかるたで遊ぼう！

今年度の対象クラスは年長(5歳児クラス)20名と決め、昨年度の4歳児クラス時から本活動を部分的に参加していたことから、これから何が始まるのかを概ね理解した状態からスタートしています。“匂い”に特徴のあるヒノキ単板を嗅ぎながら、学んだひらがなを生かし、本活動の学生証代わりになる名札を作成しました。

また、葉っぱの違いを“視覚”で理解してもらうため、特徴のある葉っぱを集めてカルタを制作し、遊びながら樹木を学びました。



写真1 第1回体験活動の様子

<第2回>

森の中にあるイロイロを探そう！

2回目の活動は保育園を飛び出し、本校の見本林に招いて開催しました。公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会で作成している「フィールドビンゴゲーム」を活用し、森の中にある“音”や“触れた感覚”を体験することを目指しました。ゲーム終了後には、私たちがチェーンソーの実演を行い、林業のカッコよさをPRしながら、森の中でおやつを食べ、自然の良さを説明しました。

<第3回>

世界にひとつだけの作品を完成させよう！

2回目の活動時に鳥の声に関心を寄せている園児が多かったことから、実際に鳥の鳴き声をクイズにしながらかードコールづくりの制作と、本校演習林で収穫したトドマツ材を活用した積み木遊びを行いました。

また、最終回となるため計3回の活動を振り返りつつまとめを丁寧に実施しました。



写真2 第3回体験活動の様子

第2 日本で広がりを見せる木育は世界に向けて広めることができるのか？

木育は「木とふれあい、木に学び、木と生きる。」これはすべての木育の根源になっていると思います。この考え方を世界に広めることができれば、サステイナブルな森林経営を目指せる可能性があると考え、第一弾として、岩見沢市の姉妹都市である、アイダホ州ポカテロ市の高校生を招き、木育講座を開催しました。当日は、英語によるプレゼンテーションで北海道の林業を説明しながら、自分の名前が漢字に置き換えて焼印がされた、キーチェーンづくりに挑戦しました。



写真3 米国訪問団との交流の様子